

7. 長時間座位による慢性前立腺炎に対する 竜胆瀉肝湯の有用性の検討

医療法人 石井クリニック
石井 泰憲

慢性前立腺炎（慢性骨盤疼痛症候群）では細菌性は少なく、無菌性が大半で、西洋医学の抗菌剤だけでは、十分な効果がなく、難治性である。1日中コンピューターの画面の相手をしている仕事が増え、車の運転など長期間の座位をとらなければならない仕事についている20～40代の働き盛りの男性に生じていて、増加している。この慢性前立腺炎（慢性骨盤疼痛症候群）に対して、西洋医学では、保険適用がセルニルトンしかなく、多くの患者は病院・診療所などで泌尿器科の医師にも、心因性なので重要な疾患でないから治療の必要なしと突き放されて、患者は不満になり転々と対応してくれる医師を探しまわっているのが現状である。

2005年7月より2007年11月までに当クリニックを受診した長時間座位が関係していると考えられる無菌性慢性前立腺炎（慢性骨盤疼痛症候群）101例を対象にした。79例に竜胆瀉肝湯、22例にセルニルトンを投与し、症状の改善度を慢性前立腺炎症状スコアで比較検討した。14日投与後ではセルニルトンより、竜胆瀉肝湯が優位に改善していたが、症状は完全に消失していなかった。しかし、症状の軽減で仕事に支障がないのが81.5%であった。休みの日、座位をとらないで、リラックスしていると症状は軽減・消失するが、アルコール、刺激物の摂取が症状を悪化させるのが大半である。竜胆瀉肝湯は症状が軽減すれば休業し、症状が悪化した時だけ服用する方が、経験上良いと考えている。効果がなくなったら、柴苓湯、桂枝茯苓丸などが有効である。以上慢性前立腺炎に対する竜胆瀉肝湯の有用性を検討したので報告する。

高齢者泌尿器疾患における漢方の有用性

東京西徳洲会病院 泌尿器科
小川 由英

泌尿器科的症状は全身疾患の客証のことも、主証であることもある。尿路不定愁訴、頻尿、前立腺肥大症、尿失禁、排尿困難、尿道炎などに対して漢方は良く使われる。気血水でこれらを捉えると、排尿困難は水が停滞する水毒、尿路不定愁訴は気鬱、性機能障害は気虚、前立腺肥大は瘀血などと考えられる。これらに陰陽、虚实、寒熱を考慮して方剤が選ばれる。尿路結石には、疼痛時に芍薬甘草湯、大建中湯、結石排石に対して猪苓湯、猪苓湯合四物湯、防風通聖散などが使われる。

過活動膀胱は、前立腺肥大（猪苓湯、六味丸、八味地黄丸、牛車腎気丸）、性機能障害（柴胡加竜骨牡蠣湯、八味地黄丸）、脳梗塞（抑肝散、釣藤散が用いられる）などが主たる原因である。性機能障害を治療すると排尿状態が改善する。女性の場合、尿道狭窄、膀胱瘤、性的欲求不満などが考えられる。尿失禁、膀胱瘤、性器脱は、骨盤底筋体操と手術が主であるが、肥満（防風通聖散、防己黄耆湯）、瘀血（桃核承気湯、桂枝茯苓丸）、便秘（大黄牡丹皮湯、通導散、調胃承気湯、大黄甘草湯、潤腸湯、麻子仁丸）の治療を行ない、臓器下垂を持ち上げるために補中益気湯などを用いる。多くは抗コリン薬で治療され、口渴と頻脈をきたす。口渴は唾液腺の分泌低下のためで、舌も乾かし、下（愛液分泌）も抑制する。頻脈は長い人生での寿命にも影響する。これらの点で漢方は粘膜を湿らせ、性感を高める女性の最高の妙薬（清心蓮子飲）もある。

高齢者に、麻黄剤（麻黄湯、越婢加朮湯、葛根湯、小青竜湯）は尿閉を起こし、血圧を上げる。附子剤（牛車腎気丸、八味地黄丸、真武湯）は温裏補陽剤で、夏ばてを起こし、のぼせる。清熱剤（竜胆瀉肝湯、五淋散、清心蓮子飲）は地黄や麦門冬を含有して湿潤させるが、猪苓湯（清熱剤）は去湿が強い（脱水、乾燥には注意）。高血圧の際に甘草を含有する方剤（五淋散、清心蓮子飲、桂枝加竜骨牡蠣湯、補中益気湯）の長期投与は要注意。